

1. 調査報告概要表

作成日 平成20年9月2日

【評価実施概要】

事業所番号	4770100206
法人名	社会福祉法人ゆうなの会
事業所名	グループホームぬくぬくの家・幸
所在地	沖縄県那覇市首里大名町1-43-2 (電 話) 098-886-5070
評価機関名	沖縄県社会福祉協議会
所在地	沖縄県那覇市首里石嶺町4-373-1
訪問調査日	平成20年8月19日

【情報提供票より】(平成20年7月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 9 年 12 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8人	常勤 8人, 非常勤0人, 常勤換算 8人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	41,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費 10,000 円
敷 金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,380 円		

(4) 利用者の概要(7月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.4 歳	最低 76 歳	最高 90 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	平安病院、神谷医院、大名訪問看護ステーション
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成9年の開設以来住み慣れた場所から引っ越して一月だが、利用者と職員が、長年住みなれた我が家のようにイキイキと楽しそうに生活している。新しいホームは同法人が有料ホームとして使用していた場所で、ハード的には浴室や廊下等、広々と整備されている。職員の異動も無く、居室内で使っていた馴染みの家具や道具等を持ち込み、細やかな対応で、環境の変化が心配された利用者への影響もほとんど感じられない。利用者の尊厳を大切にしたい地域に開かれたケアの理念が随所に発揮され、医療との連携もスムーズに行われてより、「ぬくぬく(温もり)の家」という、名称通りのホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価では①地域への運営理念の説明、②トイレや浴室等の改善、③介護計画を始めとする記録等の整備、④近隣の福祉施設等との交流、等が要改善項目として上がっていたが、全員で話し合いを重ねて、改善計画を今年度の事業計画に盛り込んで取組んだことが記録や観察で十分に伺われた。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は、前回の外部評価の結果を踏まえて全員で話し合い、ケアに関することは、職員全員で数回に分けて日々のケアを見つめ直しながら丁寧に評価し、運営体制に関することは法人との連携も取り、サービスの質の向上につながるよう努力している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は2ヶ月に1回定期的に開催しており、毎回全委員が出席している。ホームの状況報告と次の取り組みや行事等について意見交換を行い、開催行事等には積極的に参加してもらい、円滑な協力をお願いしている。会議をベースに行政へも直接電話で情報収集したり、サービスの向上に役立っている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 意見箱の利用より面会時や電話で直接話す家族が多く、利用者の様子確認等が主である。家族によっては月1回から週1、2回は面会で来所するので、生活状況や職員の異動、現金出納帳等の確認をお願いし、健康状態の報告は随時行っている。ホーム便りは行事等の利用者の写真や家族の声、ケアの内容等も掲載して、冊子にして1年に1回配布している。運営に関しては夜間の家族への連絡体制等が反映されている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホームの引越し後も従来通りの取り組みは継続し、バザーの開催や地域の運動会、祭りにも積極的に参加する準備を進めている。大名(母体)主催の地域在宅老人を対象にした月一回開催のふれあい交流会へ利用者は毎月参加し、交流を深めている。防災訓練は、大名職員や地域防災協力委員(22名)の協力を得て実施している。

2. 調査報告書

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念を念頭に入れて職員全員で話し合い、利用者の尊厳を最も大切にして、家族も含め地域との交流を保ちながら安心できる暮らしを支援することを理念として掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	採用時のオリエンテーションで理念について説明し、スタッフミーティングの際には全員で唱和している。日常的にも気持ちの上で理念に添ったケアを心がけている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの引越し後も従来通りの取り組みは継続し、バザーの開催や地域の運動会、祭りにも積極的に参加する準備を進めている。大名(母体)の主催するふれあい交流会へも利用者は毎月参加し、交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果は全員で話し合い、要改善項目に関しては次年度の事業計画に取り込んでいる。自己評価もケアに関することは、職員で何回かに分けて丁寧に評価し、運営管理に関することは法人との連携も取り、サービスの質の向上に努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的に開催しており、毎回全委員が出席している。ホームの状況報告と次の取り組みや行事等について活発に意見交換を行い、サービスの向上に役立っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議をベースに、直接電話で情報収集したり、開催行事には、積極的に参加してもらい、円滑な協力をお願いしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りは行事等の利用者の写真や家族の声、ケアの内容等も掲載して、冊子にして1年に1回配布している。家族によっては月1回から週1、2回は面会で来所するので、生活状況や職員の異動、現金出納帳等はその際に確認してもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の利用はほとんど無いが、面会時や電話で直接話す家族が多い。利用者の様子確認等が多く、運営に関しては夜間の家族への連絡体制等が反映されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人の配慮で異動は最小限に抑えられており、これまでに2名が定年退職したが、離職前に朝の会でお別れのあいさつをし、家族の面会時にも報告している。また離職後も時折訪ねてきては利用者との交流を続けるなど、ダメージを最小限に防ぐようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会へは交替で全員が出席できるように研修計画を立て、終了後は伝達研修を行い、情報の共有に努めている。事業所内で月1回は勉強会を開催し、人事考課も有効に活用して職員の育成に努めている。	○	職員を育てるしくみは整っているのですが、今後は看取り(終末ケア)についての研修等も積極的に開催し、引き続き他の研修も継続して、サービスの質の向上に取り組んでいただきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に1回のグループホーム連絡会には管理者が参加し、施設見学や他の研修会にはできる限り、全員が交替して参加できるように配慮し、他事業所の取り組み等も参考にしながら日々のケアの向上に活かすようにしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に日中の体験を通して、一緒におやつを頂いたり、レクをしたりして自然に馴染めるよう支援している。慣れないうちは家族の協力も仰ぎ、個々の状況を考えてながら対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	書や楽器、裁縫等、それぞれ得意な分野で利用者が職員に教えてくれたりしながら、能力を発揮している。おやつはほとんど利用者との共同作業で手作りしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のケアの中で気づいたことを日誌や申し送り、介護記録に記録したり、面会時に家族や知人、縁者等から得た情報等から本人の意向の把握につなげている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日常的なケアの中から課題を見出し、本人の意向や家族、関係者からも情報を持ち寄り、話し合いをして、介護計画に反映している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しはもちろんのこと、急な変化の場合は、臨機応変に対応している。内容的には見直しと同じ手順で計画を作成している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	基本的には受診は家族が同行するが、状況に応じて訪問看護と連携を取り、職員で柔軟に対応している。また地域の公民館やデイサービスへの送迎等も支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者はそれぞれのかかりつけ医を受診しており、家族には確認メモを持参してもらい、疑問点等には直接医師へ連絡し、連携をとるようにしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時に看取り介護の指針を説明し、家族との同意書も交わしている。現在まで対応例は無いが、できる限り訪問看護や医師との連携を取り、ホームで対応していく方針である。	○	指針について職員全員が共有し、医療との連携や家族との話し合いの機会を持つことで、チームとして利用者の最期を看取るという壮大なターミナルケアに取り組んで頂きたい。そのためにも定期的な職員研修の開催をお願いしたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	理念に謳われている利用者の尊厳を大切にするケアを日々心がけている。排泄等に関しても羞恥心に配慮した声かけや着換え等で対応している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活暦や家族等の情報をもとに利用者の状況を把握し、一人ひとりのペースや意向などを大切にしながら、入浴や外出、日々の活動等、無理強いすることなく支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	以前はホーム内で作っていたが、引越後は法人から運ばれてくるので、おやつはできるだけ利用者也参加して作るようにしている。食事中は行事の話題や配膳や下膳もみんなで行っている。	○	食事の準備はメニューを考えたり、材料の買い物、下ごしらえから作る際の匂いなど、生活の風景そのものなので、以前のように自分達で作る方向で進めていただきたい。やる気のある職員と利用者が多いのでぜひ実現していただきたい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に週2回の入浴だが、本人の意向に合わせて入浴の支援をしている。引越しによってハード面でも便利になり、状況によって柔軟な対応をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	清掃やおやつの準備、食事の配膳等、希望に応じて手伝ってもらっている。書道やエレクトーン等も職員に指導しており、敷地内に畑地も確保して、近い将来は園芸の支援も予定している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望に応じてドライブや夜の観劇等にも行き、外出は週2回以上は行っている。夏場は日中暑いので、夕方の散歩なども職員のシフトを考慮できる限りの支援を思案中である。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	法人の敷地内に引越後は、厨房の工事で危険が伴うため、期間中は玄関の押しボタンの位置を変えているが、工事終了後は元に戻す予定である。職員で話し合い、エレベーターの利用も自由にさせている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	引越して1ヶ月後に、大名職員や地域防災協力委員(22名)の協力のもと、防災訓練を実施している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士が作成したメニューで栄養管理を行い、摂取状況も毎日記録している。日中は自由に飲み物を摂取できるよう配慮し、夜はペットボトルの水を各部屋に配置している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や廊下には椅子やソファが配置され、テレビやテーブルもあり、利用者同士や家族の面会時等にくつろげる空間である。キッチンから食堂にかけても動線がスムーズで心地良い。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	引越しによる環境の変化を避けるために、以前の家具や日用品等、使いなれたものを運んで配置した。最初の1ヶ月は大きな表札を居室に張っていたが、その後は通常の表札をしている。大きな混乱もなく居心地良く生活している。		